

# 特集「ケーブル技術ショー2024」

## 最新技術・最新製品レポート ～高速・低遅延技術が進展～

7月18日～19日に東京で開催された「ケーブル技術ショー2024」では、50G-PONやXR Optics、ローカル5Gによる映像伝送など、新しい通信技術を活用した製品や研究成果が展示された。本特集では、このような今後ケーブルテレビでの活用が期待される通信技術や製品・ソリューションの中から、これまで本誌で詳しく紹介していないものに焦点を絞り、レポートする。

(渡辺 元・本誌編集長)

### シンクレイヤ

#### 「50G-PON」製品を初めて展示 投資を抑制しながら導入可能

文：和田宏彦

シンクレイヤ株式会社 経営企画室 次長

シンクレイヤはケーブル技術ショー2024で、最新の超高速PON規格「50G-PON」製品を初めて展示した。この展示では、試作品ではなく実際の製品版を使用し、「50G-PON & XGS-PON Comboラインカード」をOLTに実装し、「50G-PON 端末」との通信デモを実施した。

「50G-PON & XGS-PON Comboラインカード」は、最大8ポートのXGS-PONと50G-PONを混在させたPONインターフェースカードで、現行のOLT「MA5800-X7」で使用できる。これにより、すでに「MA5800-X7」を導入している事業者は、投資を抑えて50Gbpsサービスを追加可能となる。

50G-PONはITU-T G.9804で標準化された50Gbpsの対称型通信

に対応する規格である。一般的に50Gbpsという超高速通信は、通信速度や低遅延にメリットがあると言われている。これは、リアルタイム性が求められる分野に向けた新たなサービスでは重要となる要素の一つである。

現時点では10Gbpsサービスへの移行が主流になっている。一方、今後のサービス展開に向けて50Gbpsの通信は大いに期待できるものであり、一部先行するケースも考えられる。このため、当社が提供する「50G-PON & XGS-PON Comboラインカード」であれば、現状から将来的な展開も含めて効率的にサービスを拡張できる。例えば、AIによる高度な対話や、医療、教育、防災行政、e-sportsといったリアルタイム性が求められる分野でのニーズが急速に高まった場合でも、投資を抑制しながら対応することも可能である。

50G-PONを既設のPONシステムと併用運用する場合、システム構成を工夫する必要があるが、シンクレイヤはこれまで培ってきたノウハウや、今年新設した開発拠点「SYNC Labo」を活かし、併用運用においても最適なシステムを提案する。50G-PONの導入を前向きに検討されている事業者とともに、実績を積み重ねながら50G-PONの普及に貢献していく。